

○総務省訓令第18号

令和5年度総務省政策評価実施計画を次のように定める。

令和5年3月29日

総務大臣 松本 剛明

令和5年度総務省政策評価実施計画

第1 総則

この計画は、行政機関が行う政策の評価に関する法律（平成13年法律第86号。以下「法」という。）第7条の規定に基づき、及び総務省政策評価基本計画（令和5年総務省訓令第16号。以下「基本計画」という。）を実施するため、総務省が令和5年度において行う事後評価の対象とする政策及び評価の方法等を定めるものとする。

第2 計画期間

この計画の対象期間（以下「計画期間」という。）は、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの1年間とする。

第3 事後評価の対象とする政策及び評価の方法等

計画期間における事後評価の対象とする政策及び評価の方法等は、次に定めるとおりとする。

1 事後評価の対象とする政策及び評価の方法

(1) 基本計画第6章第2節第2項(1)に規定する主要な政策（以下「主要な政策」という。）のうち、以下の事業を含む政策を対象とし、実績評価方式、総合評価方式その他政策の特性に応じた評価方式により試行的に評価を実施する。

- ・ 行政評価等による行政制度・運営の改善
行政評価等実施事業（総務本省）及び行政評価等実施事業（管区行政評価局）
- ・ 地域振興（地域力創造）
地域おこし協力隊の推進に要する経費
- ・ 情報通信技術の研究開発・標準化の推進
戦略的情報通信研究開発推進事業
- ・ 情報通信技術高度利活用の推進
放送コンテンツによる地域情報発信力強化事業
- ・ 電波利用料財源による電波監視等の実施
周波数逼迫対策技術試験事務
- ・ ICT分野における国際戦略の推進
ICT海外展開パッケージ支援事業

なお、上記以外の主要な政策についても、上記政策の評価を参考に試行的に評価方法等の見直しを実施し、当該見直しの結果を令和6年度以降における主要な政策

の評価に反映することとする。

また、行政目的とそれに対応する事業等の関係性を確認するために、主要な政策において政策体系の明示に試行的に取り組む。

- (2) 基本計画第6章第2節第2項(2)①に規定する法第9条の規定に基づき事前評価の実施が義務付けられた政策(研究開発、公共事業及び行政機関が行う政策の評価に関する法律施行令(平成13年政令第323号)第3条第6号に規定する政策に限る。)であって、事後の検証が必要と認められるもの(前項に該当するものを除く。)について、事業評価方式により評価を実施する。
- (3) 基本計画第6章第2節第2項(2)②に規定する国税における租税特別措置及び地方税における税負担軽減措置等(特定の行政目的の実現のために税負担の軽減・繰延べを行うものに限る。)のうち法人税、法人住民税及び法人事業税に係るもの(基本計画第5章第2節第2項(1)①に係る事前評価を実施したものを除く。)について、事業評価方式により評価を実施する。
- (4) 省令、告示及び通達の制定又は改廃により、規制を新設し、若しくは廃止し、又は規制の内容の変更をすることを目的とする政策(大臣官房政策評価広報課長が別に定めるものに限る。)であって、基本計画第5章第2節第2項(1)②の規定に基づき事前評価を実施したものについて、事業評価方式により評価を実施する。

2 評価の手続等

- ① 政策の所管部局等は、この計画に基づき、大臣官房政策評価広報課長が政策の特性に応じて別に定める方法により評価書の案(以下「評価書案」という。)を作成し、大臣官房政策評価広報課に提出するものとする。政策の所管部局等は、評価書案を作成するに当たり、当該政策に係る専門家からの意見聴取を積極的に行うものとする。
- ② 大臣官房政策評価広報課は、政策の所管部局等から提出された評価書案について、学識経験者等の意見を踏まえつつ、基本計画第10章第1節第2項(1)③の規定に基づく審査を行い、大臣、副大臣及び大臣政務官の了承を得て、評価書を決定し、公表するものとする。
- ③ 大臣官房政策評価広報課は、政策の特性に応じた機動的かつ柔軟な政策評価を早期に定着させるため、政策の特性に見合った政策評価の方法等について、政策の所管部局等の協力を得ながら検討を行うものとする。また、政策の所管部局等が政策評価の試行的な取組を実施する場合は、支援及び助言を行うものとする。

附 則

この訓令は、令和5年4月1日から施行する。